

『イベント学研究 (Journal of Eventology)』編集規程案

目的

『イベント学研究』は、イベント学会の発刊する学術誌で学術性並びに有用性が高い業績を論文もしくは研究資料として刊行することにより、イベント分野における研究の成果を広く公開するとともに、学術と実践を結びつける交流の場としての位置づけを目的とします。

編集委員会

『イベント学研究』の編集のために、イベント学会理事会は編集委員長1名、副編集委員長1名、編集委員を選出し、『イベント学研究』編集委員会を組織します。

掲載分野

『イベント学研究』は以下のような研究分野での理論的、実践的な投稿論文を募集します。

- ・ 歴史・民族・宗教・社会・政治・哲学・原理
- ・ 経営・経済・マーケティング
- ・ 心理学・行動科学
- ・ 観光・都市工学・建築
- ・ 文化・芸術・スポーツ
- ・ 研究方法論・マーケティング・リサーチ
- ・ その他イベントにかかわる諸分野（教育・環境・コンプライアンス・人材育成など）

理論的・経験的な研究に加えて、上記それぞれの分野における歴史的研究や計量的研究、また一つの研究分野における既存研究の動向を詳細に調査した、いわゆる「調査（サーベイ）」論文の投稿を歓迎します。なお投稿論文は、学術誌に未発表のものに限ります。

投稿原稿の種類

- I. 総説、原著論文、及び研究資料（査読あり）
- ① 「総説」とは、イベントを対象として研究領域にかかわる特定のテーマを文献レビューなどに基づいて包括的かつ客観的に総括したものです。
 - ② 「原著論文」とは、客観性、論理性、普遍性を備えた学術的に価値の高い内容を持つオリジナリティのある研究成果をまとめたものです。
 - ③ 「研究資料」とは、学術的な資料性が高い研究成果などで、客観性・論理性・普遍性などに検討の余地が残されているものの、速報性があり公表する価値があるもの。
なお本カテゴリーでは、編集委員によって選定された査読者によって、学術誌レベルの査読が行われます。

II. 実践報告、書評（査読なし）

- ① 「実践報告」とは、実践的な事例をまとめた研究成果な

どで、客観性・論理性・普遍性などに検討の余地が残されているものの、速報性があり公表する価値を認められるもの。

- ② 「書評」とは、本学会の諸分野にかかわる単行本の全部または一部の概要が明瞭であるとともに、その内容に従った問題提議を含むもの。

なお本カテゴリーでは、編集委員により原稿の基本的な校正を行います。

III. その他

「文献紹介」や「討論」などは、編集委員会が掲載の可否を決定します。

審査プロセス

投稿論文（原稿の種類Ⅰ-①～③）の審査は、編集委員会と、編集委員会が依頼する査読者によって行われます。編集委員会は、編集委員長、副編集委員長、及び編集委員によって構成され、研究分野ごとの複数の査読者は原則として会員から選ばれます。論文掲載の可否は、複数の査読者による匿名評価の結果に基づき、編集委員会が決定します。

審査方法

- ① 投稿された論文等（原稿の種類Ⅰ-①～③）については審査（査読）を受けるものとします。
- ② 編集委員会が原稿の内容により適任者を2名選定し、査読を依頼します。
- ③ 査読結果には査読者の所見とともに以下の区分をもって評価が明記されます。
- ④ 修正の必要がなく、そのまま掲載可（A）
- ⑤ 修正と修正後の再審査が必要（B）
- ⑥ 掲載不可（C）
- ⑦ 審査困難（D）
- ⑧ Dと判定された場合には、編集委員会は直ちに他の査読者を選び、査読を依頼します。
- ⑨ 編集委員会は査読の結果に基づき、掲載可、修正再審査、掲載不可の判定を行い、審査結果および査読者の判定と所見を投稿者に通知します。
- ⑩ 修正再審査の場合には査読者の判定と所見を投稿者に送付し、修正・再提出を求めます。
- ⑪ 受理日は編集委員会で掲載可と判定された日とします。

改廃規定

本規定の改定は理事会が行います。

『イベント学研究 (Journal of Eventology)』 投稿規程案

投稿資格

イベント学の発展に寄与して頂ける方であれば、本学会員に限らずどなたでもご投稿頂けます。ただし、学会員以外の方は、投稿料として3,000円を事務局に支払うこととします。なお投稿料の支払いは、筆頭著者に限るものとし、共同研究者は無料とします。

原稿の公募

『イベント学研究』への投稿論文の原稿は、随時受け付けています。下記の宛先にメールもしくは郵送でご送付下さい。

イベント学会『イベント学研究』編集委員会
〒102-0082 東京都千代田区一番町 13-7
[Tel] 03-5215-1680 [Fax] 03-3238-7834
[E-mail] info_info@eventology.org

投稿いただいた原稿は、前掲「編集規程」に従って審査の上、最終原稿を改めて提出していただくことになります。なお、『イベント学研究』は年間1号の発行を予定しています。

投稿原稿の様式

I. 原稿のフォーマット

原稿は、ワード(Windows版)またはPDFを使用しA4サイズ縦／横書きで作成して下さい。用紙設定は、全角40字20行(英文綴りおよび数値は半角)で、上下左右に約25mmの余白をとり、フォントはMS明朝、英語・数字はTimes New Romanを用い、フォントサイズは10.5ポイントとします。本文は現代仮名遣いとし、外国語を仮名書きする場合はカタカナで表記を原則とします。余白(左側)には、行番号をページごとに振り、最終審査終了後の掲載通知を受けた場合はワードによるテキストファイルを提出するものとします。また、本文には、ページ下部中央にページ番号をつけるものとします。原稿の体裁は、別紙の規準レイアウトをご参照下さい。

II. 原稿の長さ

原稿の規定ページ数は、原則として30ページ以内としますが、編集委員会が認めた場合はその限りではありません。図表の大きさは大きさにかかわらず、1点あたり全角400字として計算して下さい。

【原稿執筆にあたっての留意事項】

- ① 審査に際して、本文には、投稿者氏名・所属先が分からないよう表記に注意して下さい(査読有り論文に限る)。
- ② 表題・副題ともに和文及び英文の双方のタイトルが必要

で、副題をつける場合には、コロン(:)で続けて下さい。なお和文及び英文の氏名・所属先の明記が必要です。

- ③ 和文(300字以上400字以内)および英文(200字以上300字以内)の要旨とキーワードをつけて下さい。なお、実践報告や書評はこの限りではありません。
- ④ 図表は、本文とは別に掲載し、係る番号と標題をつけて下さい。
- ⑤ 注をつける場合は、本文のその箇所に注^リのように通し番号をつけ、本文と論文末の参考文献との間に一貫して番号順に記載して下さい。
- ⑥ 参考文献は、以下の様式で記載して下さい。

例)

山口志郎・野川春夫・山口泰雄(2014)冠スポーツイベントにおけるパーソナリティ・フィットが消費者の購買行動に及ぼす影響:ブランド・パーソナリティを用いた定量分析.生涯スポーツ学研究,11(1),13-25.

間宮聰夫・小林淑一・野川春(2003)実践イベント学入門.サイエンティスト社:東京,pp.1-30.

なお、本文中では(師岡・天野,2014)、(工藤ら,2013)、(Green and Chalip,1998)、(Nogawa et al.,1996,p.47)というように引用して下さい。著者が2名の場合、和文の場合には中黒・、英文の場合には“and”を用いて下さい。ただし、著者が3名以上の場合、筆頭著者の姓の後に、和文の場合には「ら」、英文の場合には“et al.”を用いることとします。

著作権の取扱い

- ① 学会誌『イベント学研究』に掲載された論文については、学会誌や学会員の研究成果を社会に広く知らしめる一助とするため、著作者の同意にもとづき、印刷物として電子アーカイブ化及び刊行物として作業を進めます。
- ② 著作権法に定められた著作権のうちの複製権と公衆送信権について、著作者個人が学会に対して利用許諾を行う場合にのみ、電子アーカイブ化を行います。ただし、この利用許諾は、電子アーカイブ化の目的に限定されるものであり、著作権は著作者に帰属し、学会は著作者の権利を侵すことがないように留意いたします。

改廃規定

本規程の改訂は理事会が行います。

以上